

「足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時： 平成24年2月19日（日） 14：00～14：52

場 所： 池田町 能楽の里文化交流会館 会議室

発言者： 意見発表者（池田町会場1番）

松ヶ谷の●●●●と申します。ただいまご説明をいただき、大変よく検討された案だと、ある意味で感心をしながら聞かせてもらったわけではありますが。私は現在、松ヶ谷、白粟を中心とした足羽川ダム下池田対策協議会の会長という職をこの十数年やらせていただいております関係で、個人的にも、また団体の会長という立場から、この両方を兼ね備えたような質問をさせていただきます。なお、本日説明を受けましたダムの評価報告云々につきましては、極めて技術的なことですので、私のようなそういうものに疎い人間がとやかく申し上げることはございません。

その中で、私どもの団体が今、平成11年度に美山町からこちらの池田町の方が変わってから十数年を経過しておりますけれども、その間に一番頭が悩ましい、また今現在も悩ませている問題は、地域振興策であります。このダムの話が出て45年を経過しようとしていますけれども、この間、当初と違って今一番大きな問題を抱えておるとするのは、全国津々浦々どこも同じでありましょうが、いわゆる高齢化、高齢化であります。そしてなおかつ、その高齢化がある程度進んだ後にやってくるのが、少子化がさらに大人になった段階で人口減という問題であります。

この問題に対応するために、我々の、特に松ヶ谷、白粟というのは、そのさらに奥の方の上・下小畑、さらに大本、金見谷地区が水没に、この案でもしダム案が通ることになりますと、そこが無くなってしまいますと、旧来、旧下池田地区として一つのコミュニティを作ってまいりましたその地域が2つに減ってしまう。この残った2つの地域のコミュニティをどのように維持していくかということが一番悩ましいところでございまして、先例地を幾つか今日まで見させてもらいましたけれども、なかなかこれが出来ていないという感じを受けたのが現実であります。

特に見させていただいて感じましたことは、いろいろダムの、水特法等々によっていろいろなものを造ってもらったりしておりますけれども、人口の減とそれからそれをメンテナンスする対策が出来てないために、折角良いものが、整備局さんが立派にされていると

というような状態を見聞きするにつけて、私たちの2つの集落も、これからの高齢化を迎えてくるこの地域を、どのような形で20年後、30年後の批判に耐えられるような地域に仕上げていくかというところが、一番頭が痛いところであります。

今回、今、ご意見をお伺いする中で、予算等々を見させてもらいまして、そういう予算は特に付けてごさいません。工事に必要な予算は付けられておりますけれども、そういう予算は付けられておりませんし、それをお聞きしたところが、これは後ほどまた各省庁あるいは県、市町村等々の自治体での通常のルーチンワークの中に入ってきて、そこで検討されて予算付けがされていくことになるのではないかというようなお話でございまして、したがって、この新しい時代を迎えるに当たっての地域のあり方というものが、どうしていいのかということが分かりません。

そういう意味から言いますと、ダムを造るという一つの起業者であります国土交通省さん側からも、しかるべき時代に相応した何かの知恵あるいは対案、対案というか素案ですね、そういうものがあっていいのではないかということ強く感じております。我々は我々で一生懸命考えておるんですが、如何せんそこまでの知恵がなかなか湧いてこなくて、これを苦慮しているというのが現実でございます。それが今回一番感じたことで、従来の流れに沿ったままに我々の生活という部分が置き去りにされてるのではないかと。

例えば、卑近な例を1つ申し上げますと、今回東北の大地震がありまして、やっと1年を経て今回復興庁というものが出来ました。これは横断的な組織だと思いますが、ダムによって出ていく人、それから残る人、これらは全部生活を奪われ、そして再建をしていくわけですので、大なり小なり大震災と同じような形で個人ベースではなっていくというふうに考えていいのではないかと。それを通常の行政のベースの中に戻して、そしてその後にはあなたたちで考えなさいと、県なり町なりと相談してやりなさいという姿勢、必要なお金は少しは出しましょうと、こういう姿勢が果たしてこれからの時代に相応しいのかということ私を強く懸念をいたしております。

○事務局

5分を超過しました。簡潔にご意見のまとめをお願いします。

○住民（1番）

と申し上げたことが一番の要点であります。従いまして、コストを安く仕上げるというのは非常に大事でありますけれども、ソフトの部分においてももう少し今後、力を注いで地域振興策、あるいは地域振興策というよりも地域衰退防止策というものがあってしかるべ

きだというふうに強く感じたわけであります。

発言者： 意見発表者（池田町会場 2 番）

私は池田町の常安に住んでいる●●●●と申します。今回、関係住民の意見を述べる機会が与えられましたので、意見を述べさせていただきます。

毎回同じことをあらゆる機会に池田町民の方が述べておられますが、どのようなことを言うのかは皆さんおおよそわかっていると思います。それは早く結論を出して下さいということです。ダムの話があつてから45年間という長い期間が経っております。45年間といいますが、40歳の方が85歳ですね。85歳まで結論が出てないということです。その間に、ダム審議委員会、それから流域委員会と長年議論をして、現在のダム計画になってきたわけです。審議委員会で大体4年、それから流域委員会、先程の経過にもありましたけども、33回やって、これも大体4年もかかっているんです。これほど長いこと結論が出ない事業というのはございません。

この45年間の間、池田町及び水没関係地元住民は、ダムに協力の要請を再三受けてきたわけでございます。地元からダムを造ってくださいということは一回も言っておりません。要請を受けて、苦渋の決断でダムを受け入れる判断をしたわけでございます。その段階で将来の生活設計の準備にとりかかったところでございます。今回の検証で、またそれが第一歩が振り出しに戻ったわけでございます。余りにも長い時間がかかり過ぎてると思いますが。水没対象の住民の方々は、自分の住み場所がまだ決まらない、決められないということです。これは将来の生活設計の見通しが立たないということなんです。我々、家がどこになるかということがはっきりしないと生きていけないわけでございます。

それから、先程も●●さんが申しましたように、高齢化も進んできております。今年に入ってから何人かの方がお亡くなりになりました。そういう意味でもう時間がないわけなんです。もうこれ以上、やる・やらないで地元を苦しめないでいただきたいと思っております。幸い、今、検証の案を見せていただきますと、今まで流域委員会やダム審議会である程度検討した案がかなり入っております。そういう中での結論は、近畿地方整備局は現在のダム計画案が最も有力と判断されました。ある意味ではこれは当然の結果だと思えます。これだけ長いこと検討してきたわけでございますので。次には、この対応方針を早く

最終決定して、前へ進めていっていただきたいと思います。

それから、これで終わりますけれども、なお、国土交通省が決めた手順で進めてきた検証の結論を、政治の都合で横やりを入れ、覆い隠すようなことは断じてしていただきたいと要望いたします。

以上でございます。